

10 岡野敬次郎法学士の洋行

〔『法学新報』第七号 明治二十四年十月二十五日〕

○岡野法学士の洋行

東京法学院講師法学士岡野敬治郎氏は此度其筋より海外遊学を命せられ民法研究の爲め不日独逸国に航せらるゝと云ふ氏は先年帝国大学を卒業し後ち大学院に入り切磋の功を積み当時法科大学の教官をも勤め我法社会に於ける壮年法律家中卓識の間へ高き名士なれば此上彼の地に於て碩学鴻儒に交はられなば其啓発せらるゝ所必す多かるべく而して其帰朝せられたる後は我法社会に一大光彩を添へらるゝなるべし右に付き東京法学院の講師院友学生中の有志者には何れも氏の爲めに盛大なる祖堂を張り其行を壮にせられたりと云ふ